

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「利用者様一人一人の個性を尊重し、寄り添いながら、その人らしい生活ができるように支援させていただく」「地域との交流、人との関わりを大切に、楽しく生き生きと生活できるように支援させていただく」をグループホームの介護目標として、開設時の職員等が作り上げ、現在に到っている。新採用者にも、必ずオリエンテーションしている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>介護の目標であり、また、立ち返る介護の原点として、日々取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>絵手紙をされている地域の方の協力により、絵手紙風に書いていただいた介護目標を、玄関脇に掲げ、来所された御家族や地域の方に見ていただけるようにしている。施設見学に訪れた方にも、必ず説明している。地域向けの広報紙「あさひホーム便り」にも、第5号より介護目標を掲載している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩等の際等、近隣の方達と挨拶や立ち話など、気軽に声をかけていただくことが増えている。ホームの前に市内循環線バスの停留所があり、バスを待つ間のひと時、ホームのベンチに腰掛け休まれている。ただし、ホームに気軽に立ち寄りいただけるようなお付き合いには、まだなっていない。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、総会や一部自治会活動にも職員が中心となり参加している。旭シルバークラブの例会(毎月1回)や夏祭りなどの行事には、入居者様も積極的に参加し、地域の方々との交流に深めている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>平成19年12月に、感染症の感染拡大防止のための学習会を企画し、参加者は少なかったが、実施できた。</p>	○	<p>介護相談など、地域の高齢者の暮らしに役立てるような活動に取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>外部評価の受審や、自己評価を実施するにあたっての目的や意義について理解し、具体的な改善に向けて取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>平成18年10月以後、2ヶ月毎の開催を継続している。入居者様の動向やホームの活動状況等を詳細に報告している。災害時の避難体制や通報装置の操作手順等について、会議の中で出された御意見を参考に作成した。また、自治会防火部長も会議に参加していただき、ホームの状況をお知らせしながら、有事の際の協力をお願いした。また、会議でのご意見を参考に、平成19年12月、感染症の拡大防止について学習会を行った。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>高齢者サービス調整チーム会議、高齢者虐待防止ネットワーク会議への参加、また、町主催の嚙下機能検診受診後の取り組みの成果などを会議で報告させていただいたり、身寄りのない入居者様のケース検討会に参加していただいた。町に寄せられたホームに関する苦情についても連絡いただき、速やかに対応するなど、サービスの質向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>そのように努めている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>身体拘束廃止推進委員初任者研修会に職員が参加し、伝達講習会等により人権等に関して学ぶ機会を設け、職員の意識をたかめて、虐待など見過ごされることがないように注意し、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約書に基づいた説明を行いながら、御家族等に不安や疑問が残らないようにと、努めている。契約や解約された後で、そのことに関するトラブルもない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関脇に御意見受付箱を設置している。また、苦情の受付さき(管理者、町役場介護保険課、国保連)を、重要事項説明書に明示し契約時説明している。苦情等があった時には、速やかに対応に努め、運営推進会議等で経過等の詳細を報告している。また、職員にも周知し、再発防止に努めている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	2ヶ月毎発行の「あさひ小町」や半年毎開催の御家族懇談会で、ホームの動向や活動状況についてお知らせする他、御家族の来所時やプランの作成・更新時に、個々にあわせた詳細な報告をして、あわせて御家族の希望や意見などを確認させていただいている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関脇に御意見受付箱を設置している。また、苦情の受付さき(管理者、町役場介護保険課、国保連)を、重要事項説明書に明示し契約時説明している。苦情等があった時には、速やかに対応に努め、運営推進会議等で経過等の詳細を報告している。また、職員にも周知し、再発防止に努めている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	業務改善委員会を設置し、業務に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや、状況の変化に柔軟に対応する為の勤務の調整に努めている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動等によるご利用者へのダメージを防ぐように、配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年度計画に基づいた研修の企画や実施、また、法人内外の研修等を職員が受講できるように努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域ケアカンファレンスや包括支援センターの企画する研修会などを通し、地域の同業者との交流を図り、サービスの質の向上に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>業務委員を中心に、業務の改善に取り組んでいるが、十分ではない。</p>	<p>○ 個人面接を行い、ストレスの把握や働きやすい環境の調整に努める。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>そのように努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前には本人との面接の機会を設けて、困り事や、不安なこと、希望などを伺い、受け止めるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>施設見学や申し込みの機会を利用し、ご家族の思いや不安、困り事や希望など伺い、受け止めるように努めている。話をお聞きする事で、気持ちが楽になったと帰られるご家族もいる。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人やご家族の緊急性を判断し、急がれる時には、他の施設への申し込みや紹介なども含めてお話をいただいている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設見学を勧めたり、管理者・計画作成担当者が訪問させていただき、少しでも安心して利用に結びつけられるように努めている。また、半年毎発行する「ホーム便り」を、地域や待機されている方々に配布し、ホームの活動状況等お報せしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	互いに支えあう関係を築いており、喜怒哀楽を共有している。時に、御利用者の思い(寂しい、帰りたいなど)に寄り添い、話を聞いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御利用者の生活状況等を御家族が来所された都度お知らせし、共に支えていける様、情報の共有に努め、時には、ご家族の思いに寄り添いながら、安心して相談していただけるような関係づくりに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	御家族の御利用者への思いや御利用者の御家族への思いを、其々の立場になって代弁して伝えるなど、よりよい関係を保てるように支援している。また、御家族との交流がホーム入居によって途絶えないように、来所しやすい雰囲気作り、声かけ、もてなし等に配慮したり、散歩など、御家族とご利用者が共に過ごせる時間や場の提供に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ホーム入居前に通っていた美容室や理容室の利用や、知人・友人宅への訪問など、希望された時には、外出を支援している。また、知人・友人が来所された時には、ご家族同様の対応を心がけている。馴染みの場所や親しい人の情報を、既存のシートを利用して提供していただいている。ただし、入居期間が長くなるにつれて、来ていただける回数は減ってきている。双方に、高齢化していることが一因と思われる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う人、気の合わない人などを把握し、食卓テーブルの座る位置に配慮したり、必要と思われる時には職員が介入するなど、其々が楽しく過ごしていただけるように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	病状の悪化により入院後亡くなられた方のご家族には、折々に訪問して声をかけたり、来所された時にはご家族がいらした時と同様に、おもてなしさせていただいている。また、他の施設に移られた方への訪問や、出会った時には挨拶を交わし、近況を報告するなど、退去後のつきあいも大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン更新時等の機会に、思いや意向の把握に努めている。吐露される思いや時には不満などを記録に留めて職員間で共有し、本人本位に検討するように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にお渡しする既存のシートに記入していただいたり、御家族や御利用者との会話等から、情報を得るように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	血圧・体温・脈拍・体重測定や睡眠・排泄状況の記録、食事・水分の摂取記録、日常生活の様子やエピソードの記録等により、体調や気分の変化等、一人ひとりの現状を総合的に把握、申し送り等で情報を共有するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン作成や更新時、関係者間での情報交換や、意見・アイデアの反映などに努めている。個別担当制をとっており、担当する御利用者について、計画作成担当者と一緒に、意見やアイデアを反映するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	一人ひとりの現状に即したプランの作成や変更に努めている。身寄りのない方については、主治医、地区民生委員や役場担当者も交えてのケース検討で、御意見など頂いている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	必要と思われる情報や細やかな日常の実践の記録、気付きや工夫に関しても記録し、プランに反映できるように努めている。記録係りにより、記録についての学習会を行い、質の向上に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームの持つ柔軟性を活かした支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議の運営やアクティビティへの支援、有事の際の通報・協力体制等、各関係機関との連携は欠かせず、この様に努めている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域のインフォーマルなサービスの活用について、今後、必要性や希望が出された時には、検討したい。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	GH運営推進会議に参加していただき、ホームの動向や活動状況等についてお知らせし、御意見やアドバイスなどを頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居前に診ていただいていた医師に、入居後も継続して診ていただける様に、御利用者の状況をお伝えしたり、日常の健康管理に努めている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	そのように努めている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護師を確保しており、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	そのように努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	そのように努めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	学習会の参加などにより、そのように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ホームから移られる場合には、細やかな情報の提供により、なるべく同じような生活が継続できるように支援している。また、入居される場合には、面接などの機会を、設けて生活状況の把握に努め、なじみのものを持ってきていただいたり、トイレ等の表示を御利用者によりわかりやすく工夫するなど、住み替えによるダメージを軽減するように努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>排泄に関する声かけや職員同士の情報交換時に他の御利用者へ配慮をすること、記録中の他御利用者の名前の記載は実名では行わないこと、排泄チェック板を裏返しに置くなど、プライバシーに配慮した対応を心がけている。ただし、急な対応を要するときなど、配慮に欠ける時もある。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>御利用者にとって分りやすい声の大きさや言葉の使い方を工夫し、関わる際には必ず御利用者を確認して意向を尊重した関わりになるように努めている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>御利用者より、「誰もいないの?」「皆いるのかい(行くのかい)?」など、他の御利用者と共に行動したり過ごすことを希望される言葉がよく聞かれている。お一人お一人のペースを大切にしながら、ユニットに入居されている方々の相互の影響等にも配慮し、希望にそって支援するように努めている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理容・美容に関しては、入居前から通っていた馴染みの店や希望の店に行けるように、連絡調整も含めて支援している。また、御利用者の希望にそってTPOや季節、天候などに応じた身だしなみや服の型や色の選択なども、ご本人の意向を尊重しながら行っている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>好き嫌いの把握を行い、嫌いな者はお出ししないように、配慮している。また、食事の準備や後片付けは、其々の力に合わせて、行って頂いている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	御利用者の嗜好については、入居時や生活の中で聞き取りながら支援している。特に、誕生日には、その方の食事の好みや希望を中心にしたメニューで、お出ししている。以前、タバコを吸う方が入居されていた時が、職員の見守りで喫煙できるように支援していた。現在は、晩酌が日課だった方に、夕食時お酒をお出ししている。日常の飲み物も、特に制限がなければコーヒー・緑茶・ココア・スポーツドリンク等、好みを確認しお出ししている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	尿意・便意の不確かな方も、排泄チェック表に基づいたトイレ誘導を行っている。また、便秘予防のために、繊維質の多い食事の工夫や、水分摂取、ヨーグルトやブルーベリー等を摂っていただき、自然な排便になるよう努めている。失敗した時にも、自尊心を傷つけない対応を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	清潔を保つ事ができるように、支援している。ご自分から入浴を希望される方が少なく、随時、声かけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間に良眠できるように、水分摂取を勧める時間帯などに配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日常生活の中で家事への参加など、役割を持っていただくことで、気持ちの張り合いや楽しみ、気晴らしにもなるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	御利用者の持っている力にそって、支援している。レクリエーションなどでの外出の折には、其々に小遣いを持って頂いて、職員の支援の元で買い物など楽しむ事ができるように、配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	美容室や理容室には、希望のところにかけられるように支援している。	○	日常使う食材の購入など、かけられるように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともにかけられる機会をつくり、支援している。	年間行事計画により、御家族参加のレクリエーションを企画し(東藻琴芝桜見物・美幌峠ツアー等)、他の御利用者やご家族と共にかけられるように支援している。また、日常的にも、ご家族との外出やドライブは、希望時何時でも許可制限していない。そのことにより、毎週、家族の方と北見市へ買い物に行かれている方がいるし、希望されていた上湧別チューリップ公園にご家族と一緒にかけた方もいる。冬期間に外食ツアーを企画し、皆でかけたりもしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お孫さんや友人・知人宛ての手紙などは、何時でもやり取りできるように、ポストへの投函等支援している。電話についても、ご本人に直接かけていただいたり、あらかじめ相手の方に連絡するなどして、御利用者との関係が損なわれないように配慮しながら支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気持ちのよい挨拶、おもてなしを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止推進委員初任者研修会に職員が参加し、伝達講習会を年1回は開催して拘束とその弊害について共有する取組みを行っている。また、機会を捉えて話しあい拘束のないケアの提供を目指している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間の決められた時間以外の玄関の施錠は原則としてしていない。外に一人で出かけることに危険を伴う方がいるため、どうしても見守りなど、安全を確保できない時に限り、短時間施錠する時がある。その時には、業務日誌への記載(理由と時間)と管理者への報告を必ず行うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ユニットの拘らず、職員間で連絡をしあい、御利用者の所在確認を行っている。また、1日1回ユニット合同の申し送りをして、御利用者の状況などを把握できるように努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個別の持っている力や認知の状況に合わせた、個別対応に努めている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	提出された事故報告書やヒヤリハット報告書を申し送りで報告し、職員間に周知、再発防止に向けた具体策を検討している。また、学習会なども企画・実施している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	ほとんどの職員が消防署主催の普通救命講習を受け、修了証を持っている。また、緊急時の対応マニュアルを、整備している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災訓練を年2回おこなっている(1回は総合訓練)。運営推進会議に自治会の防火部長にも参加していただき、有事の際の協力をお願いしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	事故報告書・ヒヤリハット報告書が提出された時には、些細な事であっても必ずご家族に連絡し報告している。ご本人の起こり得るリスクについてもお話し、再発防止の対応なども具体的に伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	血圧・体温・脈拍・体重測定や睡眠・排泄状況の記録、食事・水分の摂取記録、日常生活の様子やエピソードの記録等により、体調や気分の変化等、一人ひとりの現状を総合的に把握、申し送り等で情報を共有し対応に結び付けられるように努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師より指示され薬を、間違いなく服薬していただけるように、与薬手順マニュアルを作成し、その手順にそって行っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	尿意・便意の不確かな方も、排泄チェック表に基づいたトイレ誘導を行っている。また、便秘予防のために、繊維質の多い食事の工夫や、水分摂取、ヨーグルトやブルーベリー等を摂っていただき、自然な排便になるよう努めている。失敗した時にも、自尊心を傷つけない対応を心がけている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯科医師の訪問歯科診療・歯科検診などを行っていただき、歯の治療や義歯の調整などして頂いている。また、歯科衛生士のボランティアにより、個別の口腔ケアについてのアドバイスを頂いている。毎食後の口腔ケアも、御利用者の状況に応じて支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取量を記録し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染拡大防止対策委員会を設置し、インフルエンザ・ノロウイルスの対応マニュアルの整備や、出勤・退勤時の含嗽や手洗いのチェックを定期的に行なっている。発症された方の吐物・排泄物を扱う際に使用する物品も、必要時に使えるよう準備している。また、らい所された方にも、手洗いとうがいをしていただくように、ポスターを掲示し声かけしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具等の消毒については、約束事を決めて行なっている。新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	腰掛けて靴を脱いだり履いたりできるように、椅子を置くなど配慮している。但し、ご近所の方が気軽に訪問してくれるような、普通のお付き合いには至っていない。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	心地よい音やまぶしすぎない明るさ等、居心地良く過ごせるように工夫している。窓ガラスの花の貼り絵など季節感にも配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	御利用者が、其々に使いいように応用しながら、居場所の工夫をしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具や写真を置くなど、御利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	御利用者のトイレでの排泄支援や、速やかな汚物処理や清掃などによる臭い対策、気温や気候に応じた温度調節や換気等に配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの設置や椅子・家具の配置を工夫し、安全に且つ自立した生活が送れるように支援している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱をしても長引かせないように、失敗しても後に残らないように工夫している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	プランターや置物の設置、野菜畑・花畑作り、椅子やテーブルの設置等、御利用者が楽しんだり、活動できるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ①ほぼ全ての利用者 ✓ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ①毎日ある ✓ ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ✓ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ①ほぼ全ての利用者 ✓ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ①ほぼ全ての利用者 ✓ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ①ほぼ全ての利用者 ✓ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ①ほぼ全ての利用者 ✓ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ①ほぼ全ての家族 ✓ ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ✓ ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p style="text-align: center;">✓</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: center;">✓</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: center;">✓</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: center;">✓</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)